

	意見内容
専門部会での意見	①審議委員が課題と感じているもののうち、本市で既に実施しているものもあり、市民にうまく伝わっていないように感じる。伝わっていないという認識が再度必要で、伝わるような見せ方をしていかなければならない。 ②県内自治体の採用合同説明会があると、本市ブースは椅子に座れないほど人気がある。高校生や大学生には市の魅力が1300年記念事業を通じて伝わっているが、社会人には中々浸透していない印象がある。 ③今まで行政は市民から要望があれば、可能な限り対応してきた。それが自主性を妨げてしまった場合もあるのではとの意見もある。これからすると、地域が担うべきこと、市民が担うべきこと、行政が担うべきことを総合計画の中で打ち出すことが必要ではないだろうか。市民自らの目標を総合計画に明記してはどうか。 ④バス無料化について、社会実験が来年終了する。デジタル社会が加速する中、スマホを用いた無料化は市全体のICT化のステップ1として考える必要があるのではないか。今後、ステップ2, 3をどう発展させていくかが重要である。その際、全庁的にデジタルデバйд解消に向けて考える必要がある。
本部会議での意見	①「予防医療」というと医療行為を市で何かしら実施するように捉えられてしまう。表現の仕方を変えた方がよい。表現方法について要検討。また、担当課も保健福祉部だけでよいのか、多賀城市全体として扱っていくということにしなければならない。 ②総合計画の将来都市像や基本構想を市民に「伝える」のではなく「伝わる」ように。 ③「Tagayasu」というのはキャッチーで分かりやすいので、このフレーズを市民に「伝わる」ように。

	総合計画審議会での意見	基本構想変更への意見	本市の意見
1	・理想は市民それぞれに目標を持ってもらうこと、この計画を通じて目標を持たせられるような仕組みづくりを考えたい。 ・生活基盤は産業活動になるので、適正な利益を保障できるような地域づくりを考える必要がある。 ・地域には夢が必要。地域づくりは人づくりに始まり人づくりに終わる、後継者育成が大事である。	-	・後期計画において、これまでの計画にはなかった政策ごとに市・市民それぞれが取り組む目標（行動）を記載したいと考えていますが、追記することによる基本構想の変更はないものと考えております。（参考：別添1「多賀城市地域福祉計画」、別添2「多賀城市環境基本計画」）
2	・「Tagayasu」の印象が良い。 ・市内総生産で公務が高いのは、今後稼ぐヒントになる。 ・東北学院大学工学部の移転は市としてどう関与し、市民の暮らしを豊かにしていくかがとても重要、後期計画にどう位置付けるか。 ・多賀城南門完成や中央公園のPark-PFI活用など、どのようにまちづくりで生かしていくか検討する必要がある。	-	・学院大学跡地の開発について、市としてどのように関わっていくのかによって、基本構想の変更に影響を与える可能性があるものと考えております。むしろ、総合計画に基づいた関わり方が全てと考えております。 ・多賀城南門や中央公園のPark-PFIは今後の本市の目玉となるため、拠点として新たな賑わい創出を図りたいと考えております。
3	・基本構想は大きく変更しなくてよい。 ・地域や人は意識的に繋げないと繋がらない。繋がる努力が必要である。	変更不要	・コロナ禍を経て、地域からも人の繋がりが薄れてきているという意見を頂いており、人や地域の繋がりは地域コミュニティの醸成において問題と捉えております（町内会の成り手不足、世代間交流の不足等）。本市においてもつなげる努力をしているものの、実現に至らず、後期計画においては市民の目標として設定したいと考えております。
4	・「Tagayasu」は、自分たちで作る、と見えてよい。担い手の育成に繋がると良い。 ・物価高騰、人材不足のみならず、震災からの蓄積が事業者の問題、課題がある。 ・魅力があるまちは、稼げるまちでもある。創業雇用が増え、活性化するためにも魅力を発信できるまちづくりを進めたい。	-	・本市としても後期計画の方向性として「賑わいの創出に留まらない、稼ぐ力への創出」を想定しており、重要なテーマと認識しています。（基本構想の変更に影響なし）
5	・重点テーマ、将来都市像を含めて大きく変更する必要はない。 ・人口減少、少子高齢化は大きな社会問題、政策2の支えあいの充実を図りたい。 ・仙台市に飲み込まれないようなまちづくりが必要である。 ・交通アクセスがとても良いので生かす必要である。 ・史跡歴史の中にあるコンパクトシティを売り込むことができないか。	変更不要	・多賀城市は本市独自の魅力を磨き上げていきたいと考えております。（基本構想の変更に影響なし）
6	・多賀城市の魅力は誇りにしていき、由緒ある歴史のまち、教育文化のまちは大きなメリットとしてアピールをした方がよい。 ・教育文化や歴史をどう育み醸成するかは、人との繋がり、共感者を増やしながらかゆって時間をかけて根気よく進めるもの ・重点テーマを継続し盛り上げたい。 ・財政問題も厳しいので、利便性、公平性、効率を重点的に考えて計画を立てるべき	-	・本市固有の歴史や価値を、創建1300年記念事業や多賀城南門完成を契機にさらに磨き上げ、市民にとって誇りとなるよう醸成していき、対外的にもアピールしていきたいと考えておりますが、文化資源を積極的に活用する「文化観光」の位置づけによっては、基本構想の変更に影響を与えるものと考えております。
7	・コロナ禍により社会環境が大きく変化し、地球温暖化での異常気象や災害も頻発するなど、取り巻く環境が著しく変化していることを踏まえて後期計画の策定をした方がよい。 ・稀有な歴史を持つにも関わらず、魅力や価値を市民にも外部の人にも認識されいていないことが問題、認知度向上が必要である。	-	・外的要因による変化や社会情勢等を踏まえることは既に計画に盛り込んでおります。（基本構想の変更に影響はなし）
8	・文化活動を大事にしたい。 ・文化的な遺産や既存のよい所についてルートを作るなどどう生かすか考える必要がある。	-	・多賀城創建1300年記念事業で培われた文化芸術などのレガシーを今後本市に様々な施策・事業に活用できるようにしていきたいと考えております、文化資源を積極的に活用する「文化観光」の位置づけによっては、基本構想の変更に影響を与えるものと考えております。
9	・高齢者に優しい目標を入れて欲しい。 ・高齢者は中々スマホを使いこなせない実情を理解してほしい。 ・子どもも大事だが、介護ではなく高齢者の健康寿命延伸のための取組を検討してほしい。	-	・経年に伴う身体の変化はもとより、全ての年代特有の身体状況に応じた配慮が必要と考えております。単に年齢によって「支える側」と「支えられる側」とに画するのではなく、互いに助け合える地域の構築が大切です。（参考：別添3「高齢社会対策大綱」）（基本構想の変更に影響なし）
10	・人口減少、少子化が進んでいるが、繋がりを求めている人は増加しているように感じる。 ・多賀城市で子育てしてよかった、住んで良かったと思えるような市にしたい。 ・有益に使える施設や情報がたくさんあるが、知らない人は知らない。	-	・本市の特徴的な行政サービスについて伝わっていないことが多いため、伝わるような工夫が必要だと考えております。（基本構想の変更に影響はなし）
11	・転入出が激しい中で、いかに愛着形成を行うか。 ・企業しやすい環境や稼ぐ力の創出は定住に繋がる大事なポイント ・縮充は必要不可欠。まちづくりや地域に子ども・学生が積極参加、活気のあるまちになってほしい。	-	・様々な年代の方がまちに興味・関心を持ち、愛着が持てるような仕掛けづくり 愛着形成、稼ぐ力の創出、子ども・学生の積極参加はこれまで取り組んできましたが、より効果的な取組を検討し表現していきたいと考えております。（基本構想の変更に影響はなし）

12	・文化観光に力を注ぐ必要がある。 ・東北歴史博物館は県の施設だが、文化財の利活用の面で上手く活用したい。 ・市民が学んだことをより発信、ともに学び文化発信を担う人材育成もより活発化、若年層の参加増加になるとよい。	-	・本市固有の歴史や価値を、創建１３００年記念事業や多賀城南門完成を契機にさらに磨き上げ、市民にとって誇りとなるよう醸成していき、対外的にもアピールしていきたいと考えておりますが、文化資源を積極的に活用する「文化観光」の位置づけによっては、基本構想の変更に影響を与えるものと考えております。
13	・農家の集約化、人数減少が進み、5年前にはなかった設備投資への懸念等新たな問題が発生している。	-	・農家のニーズを捉え、意欲的な方へ求められている支援を実施していきたいと考えております。（基本構想の変更に影響はなし）
14	・文化財の活用が重要である。広域連携で進められるとよい。 ・総合計画の7つの政策のうち、柔軟性を考えどこに重点を置くか見極めが必要 ・時代の変化は速いので、将来都市像をどう見据えるか重要な視点である。 ・財政基盤の維持をしっかりと検討すべきである。	-	・厳しい財政状況であるため、市内の活性化を積極的に支援するとともに、活用できる補助金や交付金などではできる限り活用し、財政基盤の構築を行っていききたいと考えております。（基本構想の変更に影響はなし）
15	・自分の子供に被害があり、東日本大震災を経て自分だけではどうにもできないと気づき、地域の取組に積極的に関わるようになってから、人との関わりを意識した。	-	・地域の方々が関わりや繋がりを意識することは重要と捉えております。（基本構想の変更に影響はなし）
16	・東日本大震災を未経験の子どもが増加、災害時の行動について知識の蓄えが必要である。 ・多賀城市の認知度向上が必要である。	-	・重点テーマとしても「震災の経験をいかしみんなの力がつながるまち」としており、後期計画も引き続き重要なテーマとして取り組んでいきたいと考えており、基本構想の変更に影響はないものと考えております。 ・伝わってほしい層に対して伝わっていないことがあるため、情報発信の仕方について見直し、工夫して取り組んでいきます。（基本構想の変更に影響はなし）
17	・東日本大震災を未経験世代に対し震災記憶の継承が重要である。 ・多賀城市を誇りに思い、市外に発信できるような人材育成ができるとよい。 ・伝わるようにSNSを活用し情報発信、魅力度向上が必要である。	-	
18	・重点テーマの「市民の誇りとなる多賀城らしい魅力をたがやすまち」が重要 ・市民が多賀城市の魅力を知らないのが課題である。	-	・市民が愛着が持てるような取り組み・まちづくりを積極的に行い、また、情報発信を工夫して取り組んでいきます。（基本構想の変更に影響はなし）

(資料3)

	後期計画方向性分野		基本構想の変更の有無
1	気候変動への適応	気候変動による風水害に留まらない、健康被害や地球温暖化に対する備え	無し
2	子育て支援の充実(福祉給付・公共施設ではない支援の充実)	単なる給付や施設の整備ではない支援の充実 子育て支援にあつては保護者自身の「子育て力」を最大限に引き出すこと 子育て支援では子ども自身が既に持っている「育つ力」を最大限に引き出すこと	要検討
3	生涯にわたる健康づくりと持続可能な社会の構築	病気になるらないための身体づくり、健康を維持し、全ての年代(特に中高年層)がまちづくりの主体となるよう推進支援	無し
4	超高齢社会・定年延長に対応した健康寿命の延伸等の健康増進施策の推進		無し
5	人材育成(年代を問わない学・産・官連携)	市民・事業所・行政それぞれにおいて、連携しすべての年代がいつでも学べる場（リベラルアーツ、アカデミー、リカレント）の機会創出	無し
6	ゼロカーボンシティ(地球温暖化対策)	ゼロカーボンシティ宣言の内容の実践	無し
7	起業しやすい環境への取り組み	頑張る人を支援、チャレンジの後押し、インキュベート～accompany(販売場所、サービス提供場所の環境づくり支援などの伴走支援)、起業への支援	要検討
8	賑わいの創出に留まらない、稼ぐ力への創出	観光客の集客、交流人口の増加だけでなく、関係人口を増やし域内だけにとどまらない経済設計と経済効果をもたらす取組	無し
9	1300年記念事業後の事業展開(スポーツ・文化芸術の活用)	1300年記念事業のレガシーをその後の文化創造のチカラに。より一層の創造と多様。	無し
10	ICT技術の活用(学校・地域・行政)	学校・地域・行政それぞれにおいて、ICTを活用し利便性の向上を目指す	無し
11	公共施設の縮充	政策間連携による相乗効果や、官民連携により人口減少・超高齢社会、施設の老朽化を見据えた縮充をより推進	無し
12	「震災の経験をいかしみんなの力でつながるまち」・レジリエンスの向上	後期計画として継続して重点テーマに掲げるため、現時点では変更なし	無し
13	地域連携への取り組み・中高年層による地域活力の醸成	施策レベルでの検討	無し
14	「土地利用のあり方」都市計画マスタープランとの整合性	整合性は取れているもの	無し
15	重点キーワードの追加	後期計画の方向性が固まった上で、「重点キーワード」追加するかを検討	－